

令和7年6月 大槌町議会定例会

行政報告

令和7年6月6日

大 槌 町

本日、ここに令和7年6月大槌町議会定例会の開会にあたり、3月定例会以降における町政運営について、ご報告を申し上げます。

1 はじめに

(サーモン養殖について)

はじめに、サーモン養殖の生産拡大について申し上げます。

去る4月16日、町議会議員の皆様と共に「弓ヶ浜水産株式会社（鳥取県境港市）」を視察し、稚魚生産施設、海上養殖施設、加工施設、内水面養魚場などのサーモン養殖関連施設の状況を確認してまいりました。

本年度で6期目を迎える「岩手大槌サーモン」につきましては、5月7日から水揚げが開始され、5月14日からは本格的な作業も始まりました。

本年度は7月までに、1,000 トンを超える水揚量が見込まれております。

また、現在、和野地区において建設中の種苗生産施設が整備されることにより、令和9年度には生産量が年間2,000 トンに達する見込みであり、サーモン養殖事業を基軸とした種苗生産、加工処理、雇用の創出、担い手の確保、町内消費の拡大などについて、新おおつち漁業協同組合や関係機関と連携を図りながら、検討を進めてまいります。

今後は、サーモン養殖の推進をはじめ、藻場の再生、ウニの畜養、ブルーツーリズムの展開、海洋教育プログラムの実施など、海業振興を通じ

て、地域における「なりわい」と「にぎわい」の創出に取り組んでまいります。

(人口減少について)

次に、当町の人口について申し上げます。

本年5月末の当町の人口につきましては、10,345人となっており、昨年5月末の10,578人から233人減少しております。

国立社会保障・人口問題研究所から公表されている「日本の地域別将来推計人口」によると当町の人口は、本年において1万人を割る9,937人と推計されております。

また、10月1日を基準日として全国一斉の国勢調査が実施される予定となっております。

国勢調査の結果は客観的なデータに基づく公正な行政を行うために、地方交付税の算定等に利用される重要な調査となり、人口減少による「地方交付税の減少」等への影響が懸念されています。

引き続き、地域社会や経済に大きく影響する人口減少に歯止めをかけるため、社会経済情勢や町の行政評価結果等を踏まえた「令和7年度大槌町重点施策推進方針」に定める「人口減少に対応した地方創生への取組み」、「地場産業拡充への取組み」、「防災・減災への取組み」、「子ども子育て支援への取組み」を推進し、町民が安全で安心して暮らすことので

きる持続可能な社会を実現してまいります。

(組織体制)

次に、組織体制について申し上げます。

本年度の職員数につきましては、新たに3名を採用し、正職員、派遣職員等を含め146名、会計年度任用職員78名、計224名体制で業務を遂行しております。

なお、釜石大槌地区行政事務組合へ1名、岩手県後期高齢者医療広域連合へ1名、岩手県へ1名、計3名の職員を派遣しております。

引き続き執行体制の強化を図るとともに、中堅若手職員の育成強化に取り組んでまいります。

以下、第9次大槌町総合計画に掲げる基本方針に沿って、各分野の取組みについて、ご報告申し上げます。

2 各分野の取組について

【産業・観光】

はじめに、産業・観光の取組みについて申し上げます。

(ブルーツーリズム推進事業)

当町では昨年度よりブルーツーリズム推進支援事業に取り組んでおり、体験ツーリズムの造成や海業の振興と合わせて、環境保全を図りながら海の魅力を未来へ繋ぐ活動を進めております。

毎年多くの海水浴客で賑わう吉里吉里海岸につきましては、本年4月に国際環境認証「ブルーフラッグ」認証を取得しました。

ブルーフラッグ認証は、環境保全、安全対策、利用者サービス、環境教育など、33の項目にわたる基準を満たした海岸等に対し、国内及び国際審査委員会の審査を経て認証されるものであります。

本年度の具体的な取り組みといたしましては、^ウ ^ミ ^ダ U M I D A 吉里吉里の駐車場の一部舗装やバリアフリー化などを推進し、より多くの方々が快適に利用できるよう、受入れ環境の整備を進めてまいります。

(漁協青年部「水産庁長官賞」受賞)

去る3月4日から5日にかけて東京都で開催された「第30回全国青年・女性漁業者交流大会」において、新おおつち漁業協同組合青年部が岩手県代表として出場し、当町における藻場再生活動やウニ畜養の取り組み、さらには海業としての複合的な事業展開について発表し「水産庁長官賞」を受賞いたしました。

当町といたしましても、今後これらの取り組みの成果を活かし、地域の活性化に資する「海業」の推進に努めてまいります。

(アニメフェスタ4)

次に、アニメを活用した誘客の拡大について申し上げます。

本年3月に開催した「アニメフェスタ4」では、当町オリジナルアニメ「大槌超神楽ダイハンマー」の豪華声優陣や三陸♥おおつちPR大使である佐藤ひろ美さんを特別ゲストに迎え、熱気あふれるトークショーを実施いたしました。

また、アニメの舞台となった町内の魅力的なスポットを巡る「聖地巡礼バスツアー」も企画し、2日間で町内外から約800名の方々に参加いただき、アニメを通して町の魅力を発信することができました。

今回の事業において新たに作成した「聖地巡礼マップ」を最大限に活用し、町内の飲食店や名所への周遊を促進することで、地域経済の活性化に繋げてまいります。

(商業支援施策について)

次に、地域経済の活性化に向けた商業支援施策について報告いたします。

全国的な燃料価格の高騰により、貨物自動車運送事業者の経営に深刻な影響が及んでおります。

こうした状況を踏まえ、町内運送事業者の事業継続を支援し、物流の安定を図るため、岩手県が実施する「運輸事業者運行支援緊急対策費」に

上乗せする形で、1台あたり2万1千円の補助金を交付する支援を実施しております。

また、物価高騰の影響により経営に支障をきたしている町内事業者を支援するとともに、町内の経済活性を図るため6月13日から「おおちゃん地元応援券（プレミアム付商品券）」の発売を予定しております。

事業者と連携した取り組みとして、三陸鉄道では「ますと乃湯での入浴、食事、往復乗車券」がセットになったお得な切符を販売しております。

明日、7日には、桃畑学園サーモンの見学を行程に含む「三陸鉄道で行く！山田・釜石・大槌サーモンツアー」が予定されており、6月8日は「第5回岩手大槌サーモンまつり」と連携し、三陸鉄道を利用して大槌駅を訪れた先着100名の方へ特産品プレゼント企画を準備しております。

引き続き事業者等と連携し、町内経済の活性化に取り組んでまいります。

（土地活用ハンズオン支援事業について）

次に、復興庁土地活用ハンズオン事業について報告いたします。

東日本大震災津波の復興事業で造成された防災集団移転元地の有効活用を図るため、令和3年度から復興庁土地活用ハンズオン事業を活用した取り組みを推進しております。

本年度も、町方地区及び安渡地区を対象とした農業的土地活用の実現に向けた取組みが復興庁に選定されました。

引き続き町内事業者と連携し、ブルーベリー農園展開の可能性について検討を進めてまいります。

(住宅建設等促進事業)

次に、住宅建設等促進事業について申し上げます。

町内産業の活性化と町民の生活環境の向上を目指し、「住宅建設等促進事業」を推進しており、新築、増築、改築などを対象に、上限 30 万円の補助金を交付しております。

本年度は、5月9日から15日までを申請期間とし、補助件数 21 件、金額として 606 万 1 千円の交付決定を行っております。

引き続き、新たな住まいの創出と住環境の改善を支援してまいります。

【健康・福祉】

(障がい者グループホームの整備)

次に、障がい者グループホームの整備について申し上げます。

グループホームの整備につきましては、国・県が実施する「社会福祉施設等施設整備費補助金」を活用することを前提に、事業者負担分の2分の1を最大2千万円まで町が補助する経済的支援と、町有地の貸付けを

条件とした公募を本年4月に実施し、事業候補者を大船渡市の法人に決定したところであります。

また、国・県が実施する補助金申請の結果については、来年6月に内示が予定されていることから、それまでの期間は、事業候補者との調整・協議を進めるとともに、地域住民等を対象とした住民説明会及び入居希望者や保護者等を対象とした説明会を適時開催してまいります。

(クーリングシェルターの設置)

次に、クーリングシェルターの設置について申し上げます。

クーリングシェルターは、熱中症による健康被害を防止するため、「熱中症特別警戒アラート」が発表された場合、暑さをしのぐために誰でも自由に休憩できる施設を町が指定するものです。

昨年度は「役場町民室」、「文化交流センターおしゃっち」、「安渡分館」、「赤浜分館」、「吉里吉里分館」、「浪板分館」の町内6箇所の公共施設をクーリングシェルターに指定しております。

本年度からは民間団体等が管理する施設にも指定範囲を広げ、5月19日には、大槌商業開発株式会社の協力を得て、「シーサイドタウンマスト」を新たに指定したところであります。

今後につきましても、広報やホームページ等で募集を行い、民間企業等との連携を図りながら、クーリングシェルターの指定施設を増やす取

組みを進めてまいります。

【教育・文化】

(けやき共育推進員の配置)

次に、けやき共育推進員の配置について申し上げます。

何らかの理由で学校に行かない・行くことができない状態の児童生徒に対して、こども教育センター「^オラ^ーイ^イ」において、学校と異なった環境の中で様々なプログラム等を通してサポートを行っております。

本年度、児童生徒の受入体制を強化するため、スクールソーシャルワーカーや教育相談員等と共に、学習支援や相談対応を実施する「けやき共育推進員」を3名配置しております。

引き続き、児童生徒一人ひとりへのきめ細かなサポートや心のケア等の充実に努めながら、誰もが安心して学ぶことができる教育の実現に向けて取り組んでまいります。

(全国高校生マイプロジェクトアワード 2024 について)

次に、全国高校生マイプロジェクトアワード 2024 について申し上げます。

本年度、大槌高校からは、「震災を経験していない私たちは何が担えるのか」と「楽しい×憧れの連鎖～大槌の郷土芸能をつなげたい！～」の2

つのプロジェクトが岩手県代表として選出され、3月28日から30日において、東京大学 伊藤国際学術研究センターで開催された「全国高校生マイプロジェクトアワード2024 全国サミット」に出場いたしました。

特に、震災伝承をテーマとしたプロジェクトは、震災の記憶が薄れつつある中で、生成系AIを活用しながら震災伝承の在り方を模索し、全国3,250件の中から6つのプロジェクトの一つに選ばれるなど、昨年度に引き続き、高い評価を受けました。

今後も、大槌高校の高校・地域・町が一体となった探究学習の支援を進めてまいります。

(はま留学について)

次に、はま留学について申し上げます。

当町での暮らしを応援・サポートするため、4月8日にはま留学生歓迎式を行い、小松議長をはじめとする来賓の御臨席のもと、7名の留学生に歓迎証を交付いたしました。

本年度、大槌高校へ58名が入学し、その内29名が町外の中学校出身者であり、生徒たちから選ばれる高校になってきたものと実感しています。

また、来年度入学予定の県外留学生の受入先確保につきましては、町内の民宿及び個人宅に協力をいただけるよう、調整しております。

引き続き、大槌高校の更なる魅力化に取り組み、特色ある高校教育による人づくりを通じて、地域活性化を図ってまいります。

(「フィールドスタディ型政策協働プログラム」について)

次に、「フィールドスタディ型政策協働プログラム」について申し上げます。

本年度、東京大学が実施する、多様な関係者と協働し社会的課題に果敢にチャレンジするリーダー人材を育成するための「フィールドスタディ型政策協働プログラム」において、当町が提案した地域課題”大槌型ニーズ教育「けやき共育」の子どもへの支援の在り方”がフィールドの一つとして選定されました。

今後、参加する学生が地域の現場で多様な関係者と対話し、現状について身をもって体験・把握することで、新たな視点による課題解決の可能性が期待されるとともに、将来の関係人口創出にも資する取組みとして、積極的に学生の受入れ等を行ってまいります。

(生涯学習の推進について)

次に、生涯学習の推進について申し上げます。

去る4月13日、「文化財保存活用地域計画」作成に係る第1回目の協議会を開催いたしました。

協議会に引き続き開催した、國學院大學の西村幸夫教授にしむらゆきおによる講演会「大槌町の歴史文化を活かしたまちづくり」には、町内外から 55 名の参加があり、地域の文化財に対する関心の高さを改めて感じたところであり、

掘り起こす意見交換会を開催しております。

また、地域計画作成にあたり、「おおつち・お宝発見、後世に残したい地域の文化遺産」と題し、4月の長井地区を皮切りに、地域の文化遺産を盛り込んでいきたいと考えております。

書物や工芸品だけではなく、郷土料理や方言、風習といった地域で伝承されてきたような事柄についても、大槌の文化財として地域計画に盛り込んでいきたいと考えております。

「大槌町郷土財活用湧水エリア」におきましては、4月12日に「郷土財エリア保全活用委員会委員」を中心に、「大槌高校はま研究会の生徒」やボランティアの方々など 35 名の協力のもと、希少植物であるミズアオイの生息池の環境保全作業を行いました。

東日本大震災津波を経て、再び花を咲かせたミズアオイが生きる環境の保全に努めてまいります。

次に、スポーツの分野について申し上げます。

5月の大型連休中に日本リトルシニア中学硬式野球春季東北交流大会が大槌町営野球場で、サッカー i.League（アイリーグ）U15（アンダーフ

ィフティーン) 沿岸リーグが大槌町営サッカー場で開催され、出場選手のほか父兄による応援など多くの来場者により会場は大いに盛り上がりを見せました。

今後におきましても、各種県大会や全国大会の開催が予定されており、引き続き、町の交流人口・関係人口の拡大に向けて、各スポーツ施設の PR や維持管理に努めてまいります。

(鎮魂の森について)

次に「震災伝承」について申し上げます。

大槌町鎮魂の森「あえーる」は、6月末の完成に向け、工事を進めております。

また、完成記念式典を8月5日に予定していると共に、8月15日には追悼と鎮魂の意味を込めた花火の打上げを予定しております。

今後も、東日本大震災津波で亡くなられた方々への追悼と鎮魂、そして震災伝承に資するよう同施設や大槌町文化交流センターの展示物など、震災資料や施設を活用した事業に取り組んでまいります。

【安全・快適】

(災害に強いまちづくりの推進)

次に、災害に強いまちづくりの推進について申し上げます。

ソフト面の取組みとして、災害時における職員の対応能力向上を目的に、5月15日に防災対策課兼務併任職員の研修会を開催したほか、6月4日に兼務併任職員及び避難所対応職員に本年度の新採用職員を加え、避難所運営訓練を実施いたしました。

防災研修、訓練を重ね、災害時に迅速かつ適切に対応できる人材の育成に努めてまいります。

ハード面の取組みにつきましては、令和5年度に着手した防災行政無線設備更新工事が本年度末に完成予定であり、現在は機器の製作が完了し今月から随時更新作業を実施することとしております。

防災行政無線の運用に支障が出ないように細心の注意を払い工事を進めてまいります。

また、大ヶ口地区に整備する津波避難施設については、造成工事の詳細設計業務が5月末で完了いたしました。

今後、用地測量調査を実施し、整備用地の取得を進めるなど、令和8年度の造成工事発注に向け鋭意取り組んでまいります。

今後もソフトとハード両面からの対策を講じながら、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

(大槌町消防演習について)

次に、大槌町消防演習について申し上げます。

去る6月1日、岩手県議会議員、大槌町議会議員のほか関係機関の皆様
様の参観のもと、「大槌町消防演習」が開催されました。

時折小雨の降る肌寒い中での開催となりましたが、演習では「大槌町
消防団」及び「婦人消防協力隊」による勇壮かつ機敏な各種点検や迫力あ
る放水訓練等が実施されました。

本年度は令和元年度以来6年ぶりに、「少年消防クラブ」が分列行進の
徒歩部隊として参加したほか、昨年度に引き続き「幼年消防クラブ」も
「防火の誓い」を行いました。

今後も消防演習や広報紙を通して、消防団活動への理解、そして魅力
を発信し、消防団への加入促進を図ってまいります。

(大槌町空家等対策計画の策定について)

次に、大槌町空家等対策計画の策定について申し上げます。

去る3月27日、当町において初めての大槌町空家等対策協議会を開催
いたしました。

協議会では、大槌町空家等対策計画案についての審議とともに、空家
等の課題や対策、利活用について様々な意見をいただき、大槌町空家等
対策計画を策定いたしました。

今後は、協議会での意見を踏まえ、町民の皆様が安全に安心して快適
に暮らすことができるよう、本計画に基づき、大槌町の空家等対策を総

合的かつ計画的に推進してまいります。

【将来を見据えた持続可能なまちづくり】

（地域おこし協力隊）

次に、地域おこし協力隊について申し上げます。

地域おこし協力隊を卒隊する隊員を祝うとともに、在籍中の隊員との親交を深めることを目的として、3月28日に「卒隊を祝う集い」を開催いたしました。

卒隊した8名のうち7名が当町に居住しており、農業・ジビエ・観光・特定地域づくり事業などの分野で地域活性化に貢献していただいております。

また、4月から新たに4名の隊員が加わったことで町内の地域おこし協力隊員は16名となっております。

本年度は新たな受け入れ先として教育委員会に1名を配置し、大槌型特別ニーズ教育である「けやき共育」の推進員として活動しております。

今後も隊員の招致と定着を図り、さらなる事業の推進に力を尽くしてまいります。

（集落支援員の配置）

次に、集落支援員の配置について申し上げます。

地域が抱える課題を住民主体で解決するための支援策として、地域活動を支援する集落支援員を各地区に配置しております。

昨年6月からは、「吉里吉里・浪板地域」及び「安渡地区」に職員4名、地域の自治会町内会から5名の方を委嘱し、モデル地域として地域支援を実施してまいりました。

本年度は、モデル地域と併せて、新たに「赤浜地区」、「源水・大ケ口地域」、「臼沢・花輪田・桜木町地域」、「沢山・迫又・柁内地域」に職員5名を配置し、計9名の職員で支援活動を実施しております。

さらに、各地域の自治会町内会から12名の方を委嘱し、地域との繋がりを強化しております。

今後につきましても、地域の方々に集落支援員の活動の周知と理解を図りながら、地域課題解決に向けた話し合いの支援や、地域の維持活性化に向けた活動のサポートなど地域支援に資する取組みを進めてまいります。

以上、行政報告を申し述べましたが、本定例会では、人事案件や条例の制定、補正予算案等を御提案しております。

何卒よろしく御審議の上、議員各位並びに町民の皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます、行政報告といたします。